

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)
事業期間を通じた評価

国立大学法人東京工業大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の事業期間を通じた評価について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり評価結果をお示しします。
あわせて、本検討会の所見についても別紙のとおりお示しします。

記

A	当初の構想どおりの取組が行われ成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。
---	--

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の
事業期間を通じた評価

国立大学法人 東京工業大学

(検討会の所見)

- 「大学経営システム」、「教育・研究システム」、「社会貢献システム」の3つの歯車がかみ合う形で実効性の高い改革が進められていると高く評価できる。全教員に年俸制が適用されるなど、人事マネジメントを他大学に先駆けて進展させていることは、全学のモチベーション向上につながり、それが高い研究や社会連携の成果を生み出していると評価できる。
- 「大学経営」、「研究・教育」、「社会貢献」の3つのシステム改革を掲げ、学長のリーダーシップの下、活動を強化していることは評価できる。これらの改革の成果が、研究・教育の成果として見える形で結実することを期待したい。
- 地道に新たな国立大学法人経営モデル定着への努力が続いている。その中で戦略的経営オフィスの存在はととても重要だと考える。さらなる注力を望む。
- 経営戦略をエビデンスに基づいて策定する体制整備が進んでおり、これらの体制が持続的に機能して経営改革、教育研究基盤の充実が一層進展することを期待する。
体制整備に必要な産学連携収入や寄付金収入、教育研究システムに係るKPIは概ね達成されており、継続性も担保されていると判断できる。
- 大半のKPIが目標を上回っている。経営改革構想の中核である3つのシステム改革も順調に進捗している。特に、経営システム改革については、第三の職種の新設、技術職員の上級職階の前倒し新設、新年俸制の全教員への適用など極めて順調に進展している。教育・研究システム改革についても、中間評価時点より進展しているようだが、社会貢献システム改革とともに一層進展することを期待したい。
- 学長のリーダーシップのもとで、大学経営システムの改革、教育・研究システムの改革、社会貢献システムの改革を推進し、様々な特徴ある成果を上げている。KPIに関しては、産学連携収入や寄付金に若干の未達が見られるものの、概ね順調に達成している。また、本事業終了後の経営改革の展開に関しては、この構想自体が、卓越した教育・研究による学知の創造と戦略的社会連携による学知の社会実装の循環を目指して展開されているので、持続性があり問題はない。

次項あり

- 東京工業大学は、単科大学であるが故に学内がまとまりやすく、教員間の意識共有の容易さという意味でこれまでアドバンテージを活用してきた。一方で、そのまとまりの良さが世界的な研究大学競争のアリーナに打って出るための足かせにもなっているように見える。つまり、ダイナミックなビジョンが見えにくく、そこに次の成長への課題があると考えられる。